

植物多様性センターの「イソギク」

千葉県から静岡県までの海岸と伊豆諸島の崖などに咲く多年草で、秋から冬に鮮やかな黄色の花を見せます。花は筒状花のみで外周は雌性花、内側が両性花です。キク科に特徴的な舌状花と筒状花ですが、どちらか一方しか持たない種もあります。

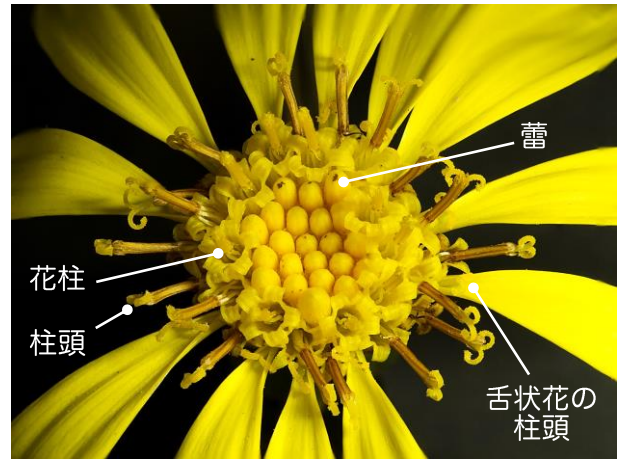
舌状花のみ: タンポポ亜科

筒状花のみ: アザミ、フジバカマ、ハハコグサ、オケラなど

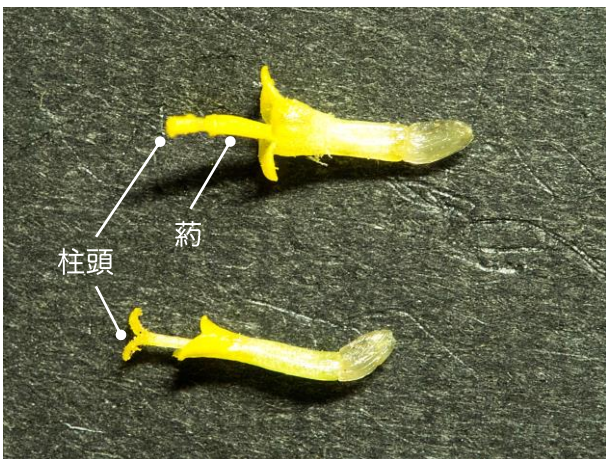
筒状花は雄蕊が成熟し花柱に押し出されて花粉を散布する雄性期、花粉が出きってから花柱が伸び、先が二分し又の間が柱頭となる雌性期を経ることで、自家受粉を避ける仕組みを持っています。



イソギクの頭花
外周の筒状花は雌性花



ツワブキの頭花
外側から内側へ開花が進む



イソギクの
両性花(上)と雌性花(下)



ノブキの両性花は不稔
雌性花のみそう果になる